

『山の坊』スキー場を訪ねて！（1～3期、同期会）

3期 西尾皓史

ワンダーフォーゲル発足の年の、第1回目のスキー合宿は、湯煙の赤倉温泉でしたが、第2回目からは、『山の坊』に場所を移し、民宿の吉田さん宅にお世話になることになった。

吉田さん宅を紹介してくれたのは、糸魚川出身の工学部2回生（当時）田沢明夫君で、「大変空いていて我々のスキー合宿には最適なスキー場である。」という理由で選んだのである。

それから数年の間は毎年、年末になると、吉田さん宅へ炊飯用具、食料、シュラフ、防寒具などを持ちこんでのスキー合宿が恒例となり、『山の坊』から帰らないとお正月が迎えられない年が続いた。

その中で、昭和35年12月のスキー合宿は今も強烈な印象として残っているのも、当時のクラブ誌『Bergheim』3、にもう一度目を通して見た。

その年は12月27日に『山の坊』に入り、雪の多い4日間のスキー合宿を終えて12月30日お昼の12時30分平岩発の汽車で帰る予定であったが、大雪に見まれて平岩駅を発車したのが何と21時40分、それから我々の乗った汽車は大雪と悪戦苦闘の末、糸魚川に到着したのが夜中の12時頃であった。

しかしながら、ここで汽車はストップしてしまい頑として動く気配もない。お寺で仮眠する者、買うつもりもないみやげ物店で暖をとる者、暖房の効かない列車の中でシュラフにもぐりこむ者などそれぞれに時間をもてあましていたが、そんな時、電灯もつかない車両の中でおにぎりの炊き出しを頂いた時は、本当に美味しいと感じたことが今も思い出される。

31日の大晦日の午後11時頃ようやく汽車は糸魚川駅を発車して金沢へ向かったが、途中で何度も停車し、炊き出しのおにぎりやお味噌汁を差入れてもらいながら、金沢駅に到着したのが、何と、1月3日午前1時のことであった。



【旧 民宿 吉田さん宅前で】

岩井 下出 田村
安藤 北 鈴木 高島 仙田
佐々木 吉田さん 近所の人 吉田さん 登内 西尾
(主人) (奥さん)

約40年前のこのような強烈な思い出を胸に、平成13年8月25日(土)午後1時過ぎに、12名のメンバーがJR平岩駅に集合した。全員が時間に遅れることなく集合し4台の車に分乗して、先ず『山の坊』の吉田さん宅へ直行した。

吉田さんは民宿を止めてからもう何年も経過しており、現在は平岩駅の近くに住居を移しておりますが、旧民宿の建物はそのまま残っていて、電気、電話、ガスも通じており、夏の間だけは、『山の坊』の旧民宿で生活をしておられるとのことであった。

吉田さんには事前に連絡をしてあったので、ご主人と奥様が暖かく迎え入れてくれ、西瓜、とうもろこしを沢山テーブルに並べ、「西瓜もとうもろこしも山の坊で獲れたもので、美味しいからどうぞ召し上がって下さい。」と勧めてくれた。新鮮でみずみずしく本当に美味しかった。

また、吉田さんの、先代のご主人は昨年、94歳で亡くなられたと言うことでしたが、現ご主人から当時のお話をいろいろと伺い、旧民宿の部屋にも入れてもらい、お風呂、いろいろなどを覗いて見てみると40年前の記憶が懐かしくよみがえり、思わず胸が熱くなったのは、私一人だけだったでしょうか。

それからスキー場を案内して頂きましたが、『山の坊』スキー場も閉鎖されて久しく、スキー場跡は木が生い繁り、当時の面影を偲ぶには植林された杉の木があまりにも大きく育ちすぎており、わずかに木立の間から見える緩やかなスロープが、スキー場らしさを訴えているようであった。

『山の坊』を後にした12名は、一路、小谷村の来馬温泉「風吹荘」へ向かった。

学生時代によく利用した大系線の汽車から眺望したあの頃の景色が懐かしく、車窓を走る大きな山々の雄姿に、改めて感動した次第であった。

来馬温泉「風吹荘」は姫川を眼下に臨む小奇麗で静かな山宿であり、夕食は名物の手打ち蕎麦、馬刺し、山菜などの山の幸に舌鼓をうち、地酒、地ワインを十分に堪能する事ができました。

また、その日は我々のグループ以外の宿泊客はなく、夜遅くまで時間も年も忘れて、歌い、踊り、そして語り合い、一見おじいちゃん風の集団が、変身して現役の学生がするような議論を大声を出してやっている、といったアンバランスな雰囲気、宿のおかみさんも腹をかかえての大笑い、「でも、同級生のお友達って良いわね。本当にうらやましい！」と、しきりにつぶやいておりました。

翌日は、朝8時30分出発して、白馬村岩岳ゴンドラリフト“ノア”に乗って岩岳山に登り、山頂付近を散策したが、残念ながらガスがかかっていたため、白馬連邦や唐松岳の雄姿を眺望することが出来ませんでした。

お昼になったので山麓駅に降りて、みんなで手打ち蕎麦を食べ、来年の再会を誓い合っ

て解散したのであります。

来年は、ワンダーフォーゲルクラブの生みの親、田村昭夫兄、鈴木兵一兄の故郷である『会津若松』に集うことになり、期日は平成14年5月18日(土)19日(日)20日(月)に決定しました。

詳細スケジュールについては、鈴木(案)が既に提示されておりますので、登内兄は、「早く下見ツアーをやろうよ。」とうるさいが、雪が解けてからになりそうです。

さて、岩岳山麓で解散した後、鈴木、登内、岩井、西尾の年老いた4羽の渡り鳥は、「このまま帰るのは勿体無い。この大自然の中でもう一晚沈殿しよう。」と言うことになり、『大町山岳博物館』を訪れた後、八方尾根のゴンドラ“アダム”の近くの八方温泉の小奇麗な

民宿にお世話になることになった。

『大町山岳博物館』では、北アルプスの自然や登山に関する歴史などに触れることができたが、中でも、井上靖の小説“氷壁”に登場する切れたナイロンザイルがモデル展示されていたのを、食いいるように見つめる4人の目は真剣そのものであった。

八方温泉の民宿では、ゆっくりとお風呂を浴びて地酒、ビール、山菜をエンジョイしながら、まじめに来年の『会津若松』OB同期会の打合せをしたが、そうしているうち睡魔に襲われて一人、二人と眠りについたのであります。

(参加メンバー)

第1期：仙田厚太郎

第3期：安藤道子(旧姓：柿谷)、岩井 修、北 正昭、佐々木美穂子(旧姓：宇野)

鈴木兵一、高島 誠、田村昭夫、登内郁夫、西尾皓史、

(特別参加) 田沢明夫、

第4期(特別参加) 下出明憲、



【岩岳頂上付近】

北 鈴木
登内 佐々木 安藤

下出 仙田 田村
西尾 田沢

3期 岩井 修

会社を辞めたので“田村教祖よりでかいことをやります”と宣言してもう1年が経ちました。しかし現実には厳しいですね。さまざまなボランティア活動をしています。山口の田舎ではでかい事はありません。

でも私は老いたりといえども“ワングル”です。歩くことが人生でした。今、3才の障害児(ケン君)のリハビリのお手伝いをしております。“この子が歩けるようになったら”が私の夢です。私が若い頃歩いたように、心臓の音を聞きながらこの子が歩けたら、この子は素晴らしい夢を描けるのではないのでしょうか。“鹿は生まれた時から足跡を紡ぎ始め、死んだ時にその足跡は途絶える。”40年前にそんな文章を、シートン動物記の中で読んだ様な記憶があります。

さて、話題を変えて“日本IT革命”について一言。日本日とのIT文網盲率が政府の“日本IT革命”によりどれだけ改善されるか？IT講習のボランティアを続けている私にとって、これも一つの問題です。来年からは政府の一般大衆IT教育予算が相当カットされるはず。一年や二年で一般の人がパソコンが使える

ようになるわけがありません。いわゆる竜頭蛇尾となる可能性が大きいと思います。ボランティアによるフォローが必要と考えてやっています。ここにも“地球を我が縄張り”とするワングルの出番があります。

しかし、何をやるにしても“人”が問題です。人間性、哲学、宗教…若きワングル達よ“夢”を持ち続けて下さい。老いたワングル達よ“夢”を忘れないで下さい。

宮島ハイク ITボランティア



寮歌祭

0期 田村 昭夫

11月23日に、日本寮歌祭祝賀会に参加させてもらった。四高の大先輩方達と声高らかに「南下軍」と「北の都」を歌ってきた。

寮歌は大きく分けて、4種類に分けられるそう。その代表として、一高は自治、二高は勤勉、三高は自由、四高は抒情である。他校の寮歌は全て、これら4校の寮歌を範として作られている由。

加藤登紀子さんが特別ゲストとして招かれていたが、彼女が最も好きな寮歌は、わが四高の「北の都」だと云って、ギター片手に歌ってくれた。参加者約300名の全員合唱となってしまった。

もぐりのニセ四高生の私を加えて、四高勢12名は特別な感慨をもって歌ったことは云うまでもない。「吾永遠に緑なる」をこの時ほど、誇らしく歌ったことがなかった。

日本寮歌祭は、今回40回を以て終了し、今後は「日本の高等教育を考える会」として、政府に教育改革に関する提言をする民間団体として生まれ変わるそうである。

寮歌を一部の旧特権階級のノスタルジーで終わらせてはいけない。教育問題こそが、旧制度から問い直されなければならない。

檄

今の日本に志のある人間がない。サラリーマン社会に生き残る為に、志を捨ててしまった。日本は今、世界中から、その無規範さ故に、軽蔑されている。

このような日本にしたのは、我々、60年代安保世代の責任である。その次は、70年代安保世代、つまり団塊の世代。

平成革命は、両安保世代が起こすべきだと思う。日本革命軍は今こそ国会に乱入して、政治屋達を縛り首にして、その勢いで霞が関を襲い、木っ端役人達を血祭にあげる。

総決起の日は、平成〇年〇月〇日とする。ワングルOB、OGの諸君！暴徒達の先鋒となって、私について来て欲しい。

諸君！体を鍛え、知力を磨いて、その日に備えてくれたまえ。

人生古へより誰か死なからん
丹心を留守して汗青を照さん

文天祥

グアムで思う

長女の結婚式で11月末にグアム島へ行った。結婚相手は現知人でないのに、何故か式はグアムなのだ。おやの財布を思ん計ってのことなのだろう。家族だけのミニ結婚式だった。

ホテルの庭に建てられた小さな教会堂で式は執り行われた。式が始まる間に駆け込んできたのが、腕に刺青した米海軍兵隊員のニセ牧師。簡単な式が終わって、シャンペンで乾杯。その間15分。

グアムの海は美しい。環礁で波頭が砕け、岸近くの浅瀬は淡青色である。

浜辺に白い安楽椅子があったので寝転んでいたら、30ドルくれと云われた。折角のいい気分が壊された。

波打ち際にはモヤシのような日本人の若者達のはしゃいでいた。

その横を行ったり来たりしている、網を肩にしたマッチョがいた。1回の投網で、10cmほどの魚が10匹も獲れば良い方だ。網からこぼれ、白い砂浜に跳ねる小魚を、嬉々として拾う母と子を、満足気に眺めているマッチョ。

50年前の日本にもこのような光景があった。

次回グアムに来る時は、永住権をとってこよう。そして、横井庄一さんの後継者となろう。

暑中お見舞い申し上げます。

瀬沢での写真は良いですね。私の方はロンドンのテムズ河畔での写真をお送りします。ロンドンに新しく親戚が出来ました。次女の旦那の実家です。最近はイギリスに暮まっています。

同封の「改革」原案は小泉首相に送付したものです。乞御批判。

白山に今年も行きたく存じます。 敬具

「国は経済によりて減びず、
敗戦によりてすら減びず、
指導者が自信を喪失し、
国民が帰趨に迷うことによりて減びる。」
中野正剛（政治家）

【日本改革十ヶ条】

原案 田村昭夫（64歳）

- 1、私有地を国家へ返還。
- 1、金融業とその関係者の財産没収。
- 1、老人医療廃止及び安楽死認可（65歳以上）
- 1、都会老人の農山村疎開。
- 1、自家用自動車の廃止。

1、年金制度の廃止。

1、大学の地域化、民営化

1、国内廃棄物の再生、再利用。 (原材料の鎖国)

1、京都へ首都返還。

1、大統領制度の導入。

[日本の教育改革五ヶ条]

原案 田村昭夫 (64歳)

1、授業料は成績不良学生と社会人学生から徴収して、教授と優秀学生がそれを使う。

(高等教育)

1、子供の教育は本来親の務めである。教師の役割はその補佐とする。

(初等・中等教育)

1、入学試験・卒業証書を廃止する。

1、初・中等教育修了後、高等教育予科(独：ギナジウム)と職業教育校(独：リアルシューレ)に分離する。

1、文部科学省を廃止し、教育は民間又は地方自治体にまかせる。

北辰(四高同窓会報) No. 41より

◆憧れの四高生

田村昭夫(金大OB)

私の母方の叔父は昭和10年春、四高に入学しました。しかし、5月に大門山登山した折の怪我が元で急逝しました。現在85歳の母のすぐ下の弟で岡田正俊と言います。長男でもあり秀才の誉れ高い叔父だった由。私は叔父が亡くなった次の年、昭和11年に母の実家(金沢市木町一番丁百番地)で誕生しました。昭和30年に金沢大学に入学した私は母の実家に下宿して、祖父祖母に正俊叔父の生まれ代わりとして可愛がられた学生時代でした。

金沢は学生を大切にす所だと両親から聞いていた私は「学生なら何をやっても許される」と勘違いして、今思うと全く恥ずかしいことばかりをやっていました。愚かなことを大真面目にやり、大学在学10年間という当時での新記録を立てもいたしました。教養部で7年半、専門課程(工学部工業化学科)2年半です。従って教養だけはたつぷり身につけた？つもりです。

その間、金沢の人達が愛した四高生を私は後輩として演じ続けてきました。「善の研究」を読み、井上靖の足跡をたどる日々でした。しかし、それは幻でしかありませんでした。私は時の流れに逆う「ドン・キホーテ」でした。サンチョ・パンサ役を演じてくれた後輩と共に幾度か現実の悲哀を味わいました。

それから40有余年、平成12年11月23日、学士会館で開催された日本寮歌祭祝賀会に友人に誘われて参加しました。それからの私は寮歌の虜になってしまいました。そして私が抱きつづけていた四高生の姿は決して幻ではなかったことを知る事が出来ました。春の西丹沢ファイアー寮歌祭では、東京四高会の皆様方にやさしく迎え入れられて、感動に涙しながら共に歌った寮歌の数々でした。私は命ある限り、寮歌に濃縮された青春の理想を唱い続けるつもりです。正俊叔父が天国から見つめてくれていることを信じて。

(会津若松市在住)



檄

日本寮歌祭四十年 往年多感至醇の三春秋を追懐し 同儕相擁して
玉杯を擧げ 青春に奠して放歌高吟 鑿々たる鞀鼓に和して 拔山蓋
世の正氣を恢弘し來れり

漸くにして 同儕悉く老境に入り 茲に其の幕を閉ぢんとす 是に
於て 原点に還り 有終の美を濟さんとするは何ぞや 蓋し 憂國の
至情 凝つて一丸となり 祖國再生の礎とならんとするに非ずや

吾人は 其の青春を戦火の中に喪へり 一旦の敗戦 塗炭の苦しみ
を脱して 半世紀の間に 東亞の一角に復興を遂げたりと雖も 吾儕
百年の後を思へば 正に竦然たり 教學の道頽廢して 道義を遺れ 一
億の民 苟且摸索して 其の趨くところを知らず 今ぞ蹶然起つて 大
義に立ち 眞の獨立を回復するに非ずんば 國際場裡に孤立して邦家
百年の生命を喪ひ 亞細亞のドンキホーテと終るに至らん 斯くの如
くんば 何を以て百萬の英靈に應へんや
彼を思ひ 此を按ずれば 茫然己を失ふに近し 大起一番 掉尾の
勇を振って 歴史の大道に 雄々しき一步を進めん哉

平成十二年十月

日本寮歌祭

| | |
|------------------|----|
| 檄 | 目次 |
| 御挨拶……………委員長 神津康雄 | 1 |
| 顧問名簿…………… | 2 |
| 出場校寮歌…………… | 3 |
| 蛍の光ほか…………… | 32 |
| 日本寮歌祭略史…………… | 33 |
| 広告…………… | 42 |
| 役員名簿…………… | 82 |
| 協賛者名簿…………… | 82 |
| 実行委員名簿…………… | 83 |
| 運営委員名簿…………… | 84 |
| 日本寮歌振興会規約…………… | 86 |
| 平成十二年度各地寮歌祭…………… | 87 |
| 参加校座席配置図 | |



寮歌祭行脚に励む
田村教祖
加藤登紀子と

2001年15期会 顛末記

15期 鈴木 良紀

21世紀最初の15期会は11月24～25日、主幹事鈴木のフィールド北摂で、昔ながらのメンバーの協力・天候に恵まれ、充実した時が過ごされました。来年は金沢、北海道の2ヶ所で開催される予定になっています。

行事を滞りなく終える事ができ、ほっとした鈴木が、本業（産婦人科診療所）のスタッフ連の正月勤務のやり繰りに頭を悩ましているおり、同期の元マドンナ、現カリスマ？の舟田節子嬢からレポート提出の内示が下されました。机の上に放置していましたが、月末・月始めの仕事が一段落した今、嫌いな作文作りのためワープロに向かっている次第です。

最近新聞の統計を見て不思議な思いにとらわれています。50代の男の1割は未婚（15期は全員伴侶に恵まれている。）、5組に1組は離婚が現実であるそう。

互いの伴侶も飲み仲間にし、それであたりまえに思ってきた私には意外な数字なのです。

（もっとも、今回参加の女性軍は、彼女らの寛容と忍耐を強調していたそう。おかげで離婚のうわさを聞かない。男性軍の相手を選ぶ眼の高さのゆえか？）

昨年の白山行で、初めて私が次回の主幹事に指名されました。大学時代、人の立てたパーワン企画に乗っかるばかりだった私を指名する事は、同期の諸君にも冒険だったと思います。

私自身不安でした。高村さんの

「大山崎山荘で行った事ないけどいいらしいよ」



松林 鈴木 高村 鈴木 松林 松縄 坂尻 宇野 間所 宇野

祖父江 間所 坂尻 金井 佐野 舟田

の一言でポイントは山崎に決めました。それまでに2回行っているの、土地勘はあります。ゆとりを持って計画するため、1年以上先、秋の紅葉の時期にねらいを定めました。

次の難物は宿泊先・宴会の設定です。京・大阪の間ゆえ、交通便利なホテルは多々ありますが、宿舎で飲み明かすスペースを確保しづらく、街に出ると高くつきます。高槻に名物料理旅館がありますが、郊外の上、ワングルの予算ではおさまりません。民宿でもないかとガイドブックを見て初めて知ったことですが、大阪府下に民宿はありませんでした。

結局以前から眼をつけていた、茨木市菅竜王山荘に、夫婦そろって下見に行きました。地元グルメガイドには一押しで載っていますが、亀岡市との市境近い山奥まで、食べに行き酒を飲むと日帰りできず、利用した事ありません。清潔で風呂が思ったより広く、一応及第としました。

しかし、車がないと宿に入れません。金井・宇野君に車を提供してもらう事でプランがなりました。JR東海道線山崎駅近くの観光に車を動員するという奇妙な計画です。（のち山崎駅周辺に荷物を預ける所が無く、荷物置用に車を持ちこんだ方が便利と判りました。）

茨木ー山崎間には渋滞の名所がありますので、抜け道を多々研究しましたが、結局日曜朝9時頃渋滞はさほどではなく、正道を走る事になりました。

当日、参加者は佐野・松縄・金井・祖父江・舟田・高村・坂尻夫婦・間所夫婦・松林夫婦・宇野夫婦・鈴木夫婦の16名です。他にも参加予定者がいましたが仕事の都合などで残念ながら来れませんでした。

夕食後館内のカラオケルームを占拠。宇野・佐野君等の選曲が昔の歌ばかりで、不思議なノスタルジアの世界にひたりました。部屋に帰りもうしばらく歓談した後、久しぶりに佐野マスターの紅茶をいただき就寝。

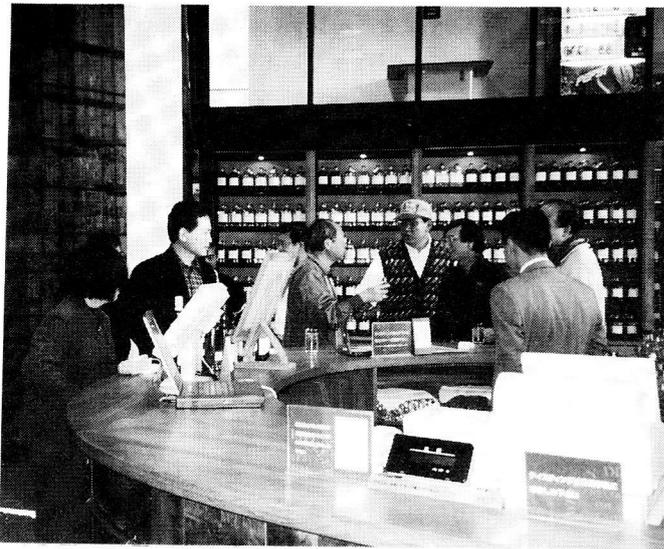
翌朝、朝食後も、15期専属マスターの香り高いコーヒーを頂戴しました。

会い集い、一緒に雑魚寝するだけで満足なのに、ワングル同期会の場合、観光プランにも幹事の評価がかかります。

観光ノルマを実行すべく、朝8時半に私の車を先頭に5台を連れ、宿舎を出立しました。

下見済みのコースを快走。国道を離れ後続の車を待つと、後に付いてきた松林車から一言「速すぎて後続がついてこれないがや」。

あわてて、昨日もそれなりに役にたった携帯電話連絡網を駆使。ばらばらの道を走った後続



たかが無味無色アルコールでも30年たつと、コクと味わいがでてくる。いわんや人生おいてをや!

車の方が、先に山崎の駐車場についた事が判明、合流できました。

サントリー山崎蒸留所見学・無料試飲へ。下見、及びパンフレットで1時間20分のコースが、先方の都合で50分に圧縮され終了。「こんな時間に昼食会場に連込んで、食べられへんで」と、販売見本の古樽製椅子に座り込んでしまった私。

金井君が救ってくれました。あらかじめ下見をしていた彼は、テストングコーナーに眼をつけており、“大学入学年度1970年物の原酒を仲間と味わう”という彼の企画を実行。気がつけばテストングコーナーを、笑いさざめき、眼をかがやかせ頬を赤らめた同行者一行で、占拠していました。



宇野 金井 松林 坂尻 松林 高村 舟田 坂尻

鈴木 祖父江 鈴木 佐野 宇野 間所 間所

昼食は、以前伴侶が利用したことがあるという湯葉料理屋。ここで、次回は「毎度遠くて参加できない」という北海道の渡辺君に、幹事を回し、押し掛ける…も、決まりました。

午後からは紅葉の大山崎山荘へ。美術鑑賞の前に、昨日の宴で食べきれなかった持ち寄り食料を、舟田嬢以下女性軍の手で衆人監視の下、芝生広場で山分け。早退の佐野君に、比田井君の13回忌用に、会費残額と、カンパを委託。

さあ、メインの山荘へ。ミロの彫刻、モネの絵、バーナードリーチの陶芸etc. 諸君、諸嬢20分も巡り歩くと、もう飽きられたようで。何といてもワングルの同期連ですから。それでも、芸術の秋を堪能いただき、仲間の教養アップに貢献できたかと。

踏切を渡れば、右JR組、左駐車場組。安堵と寂しさと、また来年もの期待で手を振った、鈴木夫婦でした。

2001年ワングル15期会参加の皆様へ

各地から御多用の中、はるばる当地へ来てくださり有難うございます。皆様の御協力と天気恵まれ、つつがなく終える事ができ幹事ほっとしています。多くの方からわざわざ帰着の連絡をいただきました。皆様強行軍にも関わらず無事帰着され一安心です。坂尻君のジャケットも竜王山荘で保護されていたそうです。

坂尻君が能登で会を催した時から、幹事の役が巡ってきたら竜王山荘を利用しようと考えていました。当時は東海自然歩道を歩かそうと無茶な案でした。いざ幹事の鉢が回ってきた時、山崎に結びついたのは高村さんの一言がきっかけです。ラフなプランで車移動時のトラブルを懸念していましたが、小生のミスを各ドライバーが機転でカバーしてくれました。感謝しています。

私自身は日常の煩雑さから逃れ、計画作成・資料収集という非日常の時間を持つ事ができ、立案の段階から楽しめました。

今回総費用を安く押さえる事ができ、石田君の十三回忌費用に一万二千円回した以外に四千円程余っています。次回会合時幹事に渡します。

強行軍で風邪をひかれたり、こじらしたりされていない事を願っています。また次回会える事を!

平成13年11月29日
鈴木良紀



50歳のウォーキング事始

15期 松林 知一（石川県野々市町在住）

伊能忠敬が測量器をかついで歩き始めたのは50歳のときだったといいますが（実際は55歳だったが、お上には許可がもらいやすいように5歳若く申請したらしい）。家業を息子に譲り、単身で江戸へ出て、文字通り第2の人生をスタートさせたのです。以来、日本全国を歩き回り、わが国初の本格的な測量地図を作り上げたことはよく知られていますが、11月に封切られた映画「伊能忠敬—子午線の夢」（主演：加藤剛）を見ると、あの時代に蝦夷から屋久島まで、何度も死ぬような目に遭いながら、延べ17年、約4万キロを、よくぞ歩き通したものだと思いを覚えます。

北国街道参勤交代の旅

そこで私も50歳という人生の節目の年を迎えて、新たな一步を踏み出すことにしました。新聞社をクビになり知的障害者の施設で働くことになったのも、その第一歩を踏み出すための何かの奇縁であろうと勝手に解釈したのです。なにしろ、それまでの非人間的な労働環境から一転して、人間らしい生活を送れるようになったのですから。

第一歩は、わが家のすぐそばにある野々市町文化会館（フォルテ）前から踏み出しました。フォルテは旧北国街道に面しており、右へ行けば野々市の中心部を通過して金沢城下へ。左へ行けば松任、小松、大聖寺を経由して近江から京、または途中、木之本から関ヶ原、中山道を通って江戸へとつながっているのです。

金沢城下から倶利伽羅峠を越えて江戸へ向かう道を下街道、逆に近江へ向かう道を上街道というのですが、加賀藩主の参勤交代はほとんどが下街道経由だったそうです。（記録では、江戸時代の参勤と交代を合わせて全部で190回のうち181回が下街道、他に中山道経由5回、東海道経由4回）

で、私の一步も下街道をできるだけ忠実にたどって江戸の日本橋をめざすことにしました。名付けて「北国街道参勤交代の旅」の始まりです。腰には万歩計、手には国土地理院の二万五千分の一の地図とコンパクトカメラ、背中のザックには傘とポカリスエットのペットボトル2本とおにぎり3個を入れ、一人寂しく(?)歩き出したのです。

たった18キロでダウン

参勤交代の前田のお殿様は、江戸までの120里（約480キロ）を12泊13日で歩いたといいますが。一日におよそ40キロ。今のわれわれに比べるとかなりの健脚と言っていいでしょう。ところが私は、というと、野々市から金沢までの最初の6キロは元気いっぱい歩けたのですが、大樋町の松門（金沢城下の入り口）を過ぎて森本へ着くころにはトボトボ歩きとなり、森本の跨線橋を渡って下口往還の松並木（北国街道沿いに植えられた当時の松並木＝県史跡）から花園にかけては足を引きずる状態となり、津幡にたどりついた時にはもう一步も歩けないありさまでした。野々市～津幡間は、たった18キロしかないというのに、です。

これではどうして江戸までたどり着けそうもないので、心を入れ替え、毎日のトレーニング（ウォーキング）に励むことにしました。そこで導入したのが「12週間30万歩プログラム」です。

12 週間 30 万歩プログラム

これはミズノのホームページで提供しているプログラムで、段階的にレベルアップしながら、とにかく 12 週間で 30 万歩を達成しようというものです。ホームページを開いて会員登録をすると（もちろん無料）自分だけのカレンダーを使えるようになり、このカレンダーに毎日の歩数を記録していけば、トータル歩数と歩行距離がたちどころに分かるという仕掛けです。5 万歩、10 万歩、20 万歩と節目に到達するごとに、事務局からは激励のメールが送られてきます。逆に一週間書き込みをしなかったら、安否を確認するメールが届きます。つまり、いったんプログラムをスタートさせると、続けざるを得ないようになっているのです。

その上、意思の強い(?) 私のことですから、途中で挫折することなく、目標より 2 週間も早い 10 週目に 30 万歩を達成することができました。ミズノ事務局からは、開くとクス玉が割れファンファーレが鳴り響く「お祝いメール」が届きました。

この間、野々市町の健康のみち「富樫の里コース」(一周 4.3 キロ)と「白山やまなみコース」(3.8 キロ)、この二つを組み合わせさらに距離を伸ばしたオリジナルの「上林コース」(9 キロ)の 3 本をせっせと歩き、職場でも昼休みに施設の周辺 30 分の散歩を欠かさずに歩数を積み上げていきました。

235 万歩、1900 キロに

こうして 30 万歩プログラムは終了したのですが、不思議なことに、毎日のウォーキングは終わらずに習慣となって今日まで続いています。

ミズノのホームページにはウォーキングカレンダーのほかに「ランクボード」というコーナーがあって、カレンダーに書き込んだ歩数を通算して毎日、その月の順位が掲示されます。もちろん、みんなニックネームですので、自分の成績は自分にしか分からないのですが、全国の会員の中で自分が何番目に位置しているかが分かるというのは、ちょっとした刺激です。一日さぼると、たちどころに順位が大きく下がります。一日 5000 歩なら順位は変わらず、8000 歩でようやく何番か上がるといった感じでしょうか。

第一歩を踏み出して一年余。平成 13 年 12 月 29 日現在の総歩数は 235 万 3042 歩、歩行距離は 1898 キロとなっています。伊能忠敬の 4000 万歩、4 万キロとは比べるべくもありませんが、自分では「よくやったなあ」とほめています。いつの間にか、金沢～江戸間を 2 往復した距離を歩いていたのですから。

最大の障壁は？

ところで、その「北国街道参勤交代の旅」ですが、実は直江津で足踏みしているのです(実際のルートは直江津には入らず、その手前から右に折れて高田城下を目指すのですが、その日のスタートとゴール地点の出入りに列車を利用せざるを得ないため、JR 直江津駅を仮ゴールとしたのです)。ここまでは毎回日帰り距離を伸ばしてこられたのですが、信越線に入ると日帰りでの踏破は困難になります。できれば 2 泊 3 日、せめて 1 泊 2 日の計画で一気に進めたいところなのですが、ここに来て、大きな壁が立ちました。

それは、わが家の「山ノ神」です。私も一時は抱き込むことに成功したのですが、山ノ神は 2 週間私といっしょに歩いても体重が減らなかったことから、あっさりやめてしまったのです。せっかくウォーキングシューズやウエア、万歩計などの道具を買いそろえたの

に、何と言う無駄遣いでしょう。それだけならまだしも、私が天気のいい日曜日になると一人で「参勤交代の旅」に出るのを、冷ややかな目で見るようになったのです。たった2週間、それも一日30分程度のウォーキングにつきあったぐらいで体重が減れば苦勞はしません。まったく、どうしたらこの「山ノ神」のご機嫌を取ることができるでしょう？

夢は四国遍路の旅

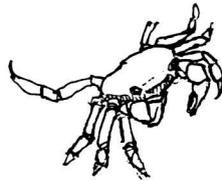
でもまあ、この旅も最難関の親不知を越えて半分まで来たので、そのうちに日本橋へゴールできるでしょう。本当は日本橋にゴールしてから、みなさんにご報告したかったのですが、「いつになるか分からない」との編集長の判断だったようです。

日本橋にゴールした後は、引き続いて東海道、中山道と踏破し、最後は四国八十八カ所1400キロのお遍路に出たいと念じています。お遍路を無事結願したそのときには、あらためてみなさんにご報告させていただきたいと思っています。十年後を楽しみにお待ちしております。

(丁)

※ご参考までに、ミズノのホームページアドレスは以下の通りです。ウォーキングコーナーの「ランクボード」を開いて「きぼうにん」というのが私です。激励のメール等いただければ幸いです。

<http://spocom.mizuno.co.jp>



幻の同期会

15期 横井 裕子

ずっと気持ちの中で大きく立ちはだかっていた7回忌を、先週の日曜日、丁度命日の日に、佐屋の家で無事に終えることが出来ました。

子供の部活や夏期講習などで日程が変わったり、東京の父が入院したりとアクシデントがたくさんありましたが、なんとか家族全員で当日を迎えることが出来てほっとしています。

奥名さんに15期会の皆様からのお心遣いを送っていただきました。いつも温かく見守っていただいて本当にありがとうございます。忙しさを理由に、ご無沙汰と失礼を繰り返してしまっているの、昭次さんに怒られてしまいそうです。

フルタイムで働くようになってからは、毎日が精一杯で精神的にも身体的にも余裕がありませんが、幼稚園だった三女も来年は中学生になるので、少しずつ変わってくるかなとも思っています。

今年の法事を一区切りに、また新しい気持ちで頑張っていきます。これからもどうぞよろしくお願いします。とりあえず、お礼まで…。皆様どうぞよろしくお伝え下さいませ。

8月19日

23期 石地 隆司

新年おめでとうございます。年末に大掃除をしていたら、レターケースの中からこの葉書がでてきました。メールアドレスの追加を送ったはずなのに何で載らないんだろう？と思っていたら、こういう訳だったんですね。たぶん裏に何書こうと思って置いたのをカミさんがケースの中に紛れ込ませてしまったようです。せっかくなので、賀状として送りました。

23期は今年は金沢支部主催で同期会をやってくれるはずですが、関西支部は年末恒例の忘年会(2000年の)を草津でやる予定です。

(以下は、同期会報告は誰に？の返事)

23期 名倉 均

残念ながら、宿予約係であった「中川」が日を間違えたため、(皆には7月下旬とアナウンスしたが、本人は、8月下旬と思い、宿を予約していた)今年はずつになり、来年、改めて開催になりました。8月下旬では、皆の都合がつかなかったの、